

2023年2月8日（水）

「水曜サロン with 赤堀会長」第3期 第14回（通算44回）

## Future of School ひとり一台のその先へ –世界中を教室に–

Stuart Miller 氏（Google for Education マーケティング統括部長 アジア太平洋地域）

### 1. 内容

#### ①学校の新しい日常

- ・ひとり1台、GIGAスクール構想の実現へー神奈川県川崎市
- ・1人1台端末が支える高校における協働的な学びー宮城県仙台第三高等学校
- ・Chromebookのある高校生活で、可能性が広がっていくー岡山県立林野高等学校

#### ②世界も日本に注目

- ・学校に新しい光を

#### ③未来を見据えた次の一歩

- ・主体的な学びの実現
- ・子どもが自分で決めていく
- ・個別最適な学び
- ・記録の可視化

### 2. 所感

全世界の関係者に見ていただきたい内容でした。まずご本人の話ですが、40年前の小学校1年生の頃に、コンピュータでリーディングやタイピングや算数のドリルをやった。子どものころからGoogleで働きたかったわけではない。当時はGoogleはなかった。どんなキャリアでも必要になるスキルを身につけることが大切である。

本日は、数々の現場のリアルをご紹介いただきました。まとめられて構造化されたものよりリアリティがあるので、いつかそのまま紹介させていただきます。日本史の授業で高校生は「お互いの考えを共有して、こうゆう考え方で見たら確かにこうなるな・・・興味が湧いたのでまた考えよう」、ある生徒は「教科書の学びだけでなく、自分たちで考え答えを出していくのがワクワクして楽しかった」、地方の高校生は「地域に貢献できる活性化させる公務員になりたい」、英語の先生を目指している高校生は「生徒との距離が近い先生になりたい」、先生からは「世界を変える人が20年後に出てくると思います」、別の先生からは「大学に入るのがゴールではない、その先で必要な力を身につけてほしい」、「県知事から「子どもたちの可能性や潜在能力を最大限に引き出し、自分の夢を実現していく・・・」。1人1台GIGAデバイスがもたらす功績は、目的や夢を持つ、そして学ぶことが楽しい幸せな学校生活なのかもしれない。そして、日本のGIGAは世界から注目され、日本に続けとアジアの国々が模索しているとお話でした。そして、学校とは何かとの問題提起があり、資格を取る場だけではなく、楽しみながら学びを深める場なのではないだろうか。

最後に、質疑から2つほどご紹介します。1つめはデバイスの効能について、手を上げて発言するのが苦手な子でも、それ以外の手段が増えること、一気に集まること。2つ目は、データ利活用の先進国について、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドは進んでおり、活用方法は、成績伸びていないこの原因分析や不登校になりそうな子の事前対策。例えば、ほぼ毎週火曜日に休んでいる子がいて、先生も気づいていなかったが、管理者がデータを分析していて気がつき、調べてみると火曜日には体育の時間があり、その子は運動靴がないことがわかった。学校で対応したら、その子は学校に来るようになった。けして難しい避けて通りたいことじゃないです、凄いヒントです。

ミラーさん、ぜひ、またの機会で、更に新しい現場の現実をおしえていただけましたら幸いです。本日はありがとうございました。

以上